

令和5年度 第2回 蕨市介護保険運営協議会 議事録

日時	令和6年3月5日(火) 午後1時30分～3時00分
場所	蕨市役所 2階 2-1 会議室
出席委員(敬称略)	
会長	濱口 豊太 佐原 勝治 西牧 修也 服部 浩子 鈴木 陽子
副会長	小山 祐康 熊谷 修作 土肥 仁美 大須賀 美雪
事務局:健康福祉部 健康長寿課	
部長	根津 賢治 課長 加藤 晶大 課長補佐 平井 典子
係長	村山 雄輝 係長 長谷川 咲子 主事 秋山 晃樹
傍聴者 1名	
<p>会議次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 議 題 <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険特別会計予算(令和5年度補正・令和6年度当初)について ・地域区分について 4. 副会長あいさつ 5. 閉 会 	
<p>配布資料</p> <p>「資料1-1」介護保険特別会計予算の概要(対前年度比較)</p> <p>「資料1-2」介護保険特別会計予算の概要(対前年度比較)</p> <p>「資料2」令和5年度3月補正予算・令和6年度当初予算</p> <p>「資料3」地域分析・検討結果記入シート</p>	

「資料4」第9期計画における介護保険給付の見込み

「資料5」第一号被保険者の介護保険料の算出

「参考資料」地域区分①・②

議事録

1. 開 会	
2. 会長あいさつ	<p>皆さまこんにちは。濱口でございます。この度はお忙しい中、蕨市介護保険運営協議会にお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>この運営協議会も10年以上やっておりますが、「地域の住民の皆さまが安心して暮らせていけるか」を委員の皆さまが代表となって意見を事務局、市政に届けていくということが運営協議会の仕事だと思います。</p> <p>委員の皆さまには本日いただいている資料から、蕨市の介護保険の状況、どんなサービスにどれだけ配当されているか、今年度の補正予算と来年度予算がどうなっているかを確認していただきたいと思っております。</p> <p>この介護保険がはじまって、重症化予防策や、介護予防策、それから在宅支援と、入所支援、車いすといった福祉用具などがサービスとして展開されてきました。資料を見ていただくと、そういった色々なサービス、様々な要素が絡みあって、資料の中にマッピングすることができると思っています。この項目で今はこれでいいかもしれないですが、将来的にこれでいいかどうかとか、そういうことも考えながら、次の計画や、今年の計画の結果を確認していきたいと思っております。</p>
3. 議題 介護保険特別会計 予算について	<p>・介護保険特別会計予算(令和5年度補正・令和6年度当初)について 資料1~5により事務局から説明の後、質疑応答</p>
会 長	<p>資料1-2の諸支出金について、備考では還付金・還付加算金・返還金とあります。今年度の3月補正で計上されておりますが、これは毎年こんなに計上されるものなのでしょうか。</p>
事務局	<p>国・県の交付金について前年度多く交付されたものを計上しております。年度によって、保険給付費の見込みと実績の差異があるため、金額は一定ではありません。ある程度余裕を持って給付費を見込んで交付金を申請しますので、基本的には返還が発生します。</p> <p>また、補足ですが、あくまで資料1は3月補正「後」の最終額であり、実際には3月補正ではなく、決算の時点で見込みがわかりますので、例年9月時点で既に補正させていただいております。</p>
会 長	<p>資料1-1の繰越金について、どういう風にみたらよろしいのでしょうか。</p>
事務局	<p>今回であれば、令和4年度の決算後の実質収支額が令和5年度の補正として繰り越されて、歳入として計上されていることとなります。</p>
会 長	<p>資料2の地域密着介護予防サービスについて、科目設定のみとなっておりますが、利用者がいなかったのか、サービス施設がないのかど</p>

	<p>ちらなりますか。</p>
事務局	<p>サービス施設自体は蕨市にもございますが、利用者がおりませんでした。</p>
委員	<p>本人の希望があれば、ケアマネジャーとしては地域密着介護予防サービスを紹介しますが、要支援の方はある程度元気なので、基本的には福祉用具の購入とか、住宅改修などを予防として利用されることが多い印象です。</p>
会長	<p>資料3の調整済み認定率とはどのような認定率でしょうか。</p>
事務局	<p>認定率に大きな影響を及ぼす第1号被保険者の性別・年齢構成の影響を除外した認定率となります。</p> <p>性別・年齢調整によって、どの地域も全国平均と同様になるよう調整するため、性別・年齢構成以外の要素の認定率への影響について、比較しやすくなります。</p>
委員	<p>資料3の中に、「問題を解決するための対応策」とありますが、どうしても人が絡んでくるため、マンパワー不足を心配することになると思いますが、令和5年度第1回運営協議会の質問の際に、「令和6年度介護報酬改定において懸念されている事項はありますか。」という質問がありました。「ケアマネジャー等介護人材が全国的に不足しておりますが、蕨市は全国と比べると不足していない状況で、人材不足になる前に一手を打っておきたい。」というような発言がありましたが、蕨市独自で人材不足が解決するような策が現時点でありますか。</p> <p>また、昨今の物価高騰において、介護事業者においても簡単に食費や電気代、日用品費を上げるわけにはいかないのですが、それに関して蕨市独自の支援策を何か考えていらっしゃいますか。</p>
事務局	<p>策定中の第9期計画において、介護人材確保事業に関して記載する予定です。</p> <p>他自治体が実際に実施しているものとして、入門研修などの研修と事業所のマッチング、介護職員の資格取得への補助金、介護人材受け入れ支援の補助金、埼玉県で実施しております外国人のための環境整備事業、東京都ではケアマネジャーを含めた介護職員への居住支援手当があるとのこと。</p> <p>蕨市の状況と市内各事業所の職員数などを把握しつつ、どの制度が適切か、先ほどお伝えしたような支援策を検討しているような状況です。</p> <p>物価高騰対策につきましては、蕨市では令和4年度に燃料費高騰対策として、利用者の送迎を実施する介護事業所に対して1事業所につき3万円を給付、合計約100万円の支出をしております。</p>

	<p>また、埼玉県では高齢者施設等光熱費等高騰対策支援事業補助金として介護サービスを含む高齢者施設に対して補助を令和 4・5 年度に実施しておりまして、5 年度には 2 回実施してまいりました。この補助金は、入所・通所・訪問に分けて、さらにプロパンガスや都市ガスなどに単価を設定して補助をしてまいります。</p> <p>令和 6 年度の市・県の補助金の実施予定は未定ですが、県の実施予定の把握や市の所管サービスへの周知、また国の動向を踏まえ、市でも検討していきたいと思っております。</p>
委員	<p>前回の議事録にて、「施設系サービスというよりは、軽度者向けのサービスを増やしていくということ、そもそもフレイル状態ならないために予防の取組に力を入れていくことを、第 9 期計画に組み込もうと考えております。」とお答えされてまいりました。</p> <p>蕨市では軽度の人が多い分、いきいき百歳体操などの既存の事業に依存しているのではなく、次の一手がこれこそ必要かなと思っております。それらを踏まえて、第 9 期計画では予防に対する明確な施策を計画されていますか。</p>
事務局	<p>第 9 期計画では、これから検討する段階になりますが、先ほどお話があったいきいき百歳体操に関しては、コロナ禍の前の状態まで、参加者を増やしたいと考えております。</p> <p>そういう考えから令和 6 年度の予算には、参加者からお金を徴収して実施するのも難しいこと、開催場所不足による部屋のレンタル料負担もあること、いきいき百歳体操のサポーター等からの要望があったこともございまして、いきいき百歳体操を開催する団体への補助金を計上させていただいております。</p> <p>まずはいきいき百歳体操の参加者を増やした上で、状況を見て新たな予防策の検討をしていきたいと考えております。</p>
委員	<p>いきいき百歳体操は、そもそも頭打ちであることと、コロナがあって休止したこともあって、元の状況に戻されること自体も大変だと思っておりますが、前と同じ状況に戻すだけではなく、サポーターの人にも達成感があったりとか、良いと思える・やりがいがあったりするような方法で再構築していただけると、課題に対して非常に効果的ではないかと思っております。</p>
会長	<p>資料 4 では、3 か年の今後の計画が掲載されており、給付費が年 2～3%増と少しずつ伸びているような状況だと思っておりますが、10 年前と比較するとやはり 30%くらい伸びているのでしょうか。</p>
事務局	<p>給付費が減少している年は基本的にありませんので、それくらいになってもおかしくないと思っております。</p>

	<p>【参考・協議会後に確認】</p> <p>令和 8 年度(2026 年)の計画値 5,611,833 千円 平成 28 年度(2016 年)の計画値 4,420,233 千円 約 27%の伸びが確認できました。</p>
会 長	<p>同様に介護保険料も少しずつ上がっているわけで、私の記憶では、当初は基準額も 4,000 円くらいだったものが、今では 6,000 円近くになっております。労働者の負担はもちろん増え、それだけ介護にお金かかっているわけです。</p> <p>予算規模が少しずつ増え、気が付いたら膨れ上がっているわけで、サービスがそれだけ充実して市民の皆さまがお金を払っても大事なことだと納得していただければいいのですが、難しい問題だと思いません。</p> <p>介護をする人たちも元気をもって提供してくれないといけませんし、介護を受けたい人たちにサービスが届かないということが起こってくると非常に困ります。全国的にも介護不足、担い手不足が起こっているようですし、人がたくさんいると思われている東京でさえ、人を募集するために手厚い支援をしていくということですから、介護サービスを買う側・売る側のマーケットをしっかりと注視していかなければなりません。</p>
委 員	<p>介護不足、担い手不足の件ですが、10 年前の蕨の居宅事業所数が 24 事業所ありました。現在は 14 事業所と 10 事業所も減ってしまいました。当時ケアマネジャーの人数はわかりませんが、現在は 38 人で、退職・蕨市を離れて他市町村で働くことが 3 月で確定している人が 2~3 人いるという現状をお伝えしておきます。</p> <p>【参考】介護保険指定事業者等管理システムから蕨市が把握している市内ケアマネジャーの人数は 43 人（令和 6 年 2 月末時点）</p>
委 員	<p>先ほどの資料 3 のところでの他の委員がおっしゃっていた課題のところ、やはり蕨市は介護度が軽い方たちの対策が課題だと議論が上がっていたかと思います。ケアマネジャーの現場目線から見ると、そういう軽度者の方たちが一番使うサービスは半日型のデイサービスですが、どこもいっぱい待ちの状況です。新規で相談を受けても場所がなく、平気で 10 人待ちのような状況です。そうするとその方たちは機能低下したままで、どんどん介護度が上がってしまい、ケアマネジャーとしては本当に困っています。</p>
地域区分について	<p>・地域区分について事務局から説明の後、質疑応答</p>
委 員	<p>2 月 21 日に介護保険改定の研修を蕨市事業者連絡会で開催しました。事業者連絡会はデイサービスの方やヘルパー、ケアマネジャー等</p>

が参加しています。

そこでアンケートを実施した結果、39 事業所が回答してくださりました。回答結果として、残念ながら蕨市の介護報酬改定の考え方に対して不満が 1/3 ありました。アンケート回答内容を一部抜粋させてお伝えさせていただきます。

なお、令和 6 年度からは近隣の川口市と戸田市の地域区分が 6→5 級地になるのに、蕨だけは 6 級地のままということを踏まえてのアンケート結果です。

- ・近隣での人材、事業所流出が心配
- ・地域区分について心配
- ・地域区分の差額を市として補助してほしい
- ・地域区分を近隣市と同じにしてほしい
- ・処遇改善加算率が上がってもケアマネジャーには加算がないが、それと同等のものはあるか
- ・4 月から 6 級地というのは決定か
- ・3 年後の改定を待たずに変更となることはあるか

話をしたらキリがないですが、私たち現場の人間としては、6 級地のまま蕨市の報酬が高くなり、周りの市は高くなることに不安を覚えます。そうするとヘルパーさんたちは、時給が高い戸田・川口市に必然的に移ってしまうわけです。

これからそういうことが増えてくるのが想定される中で、人材の不足の一手として、研修等をされるようですが、今いる現場の人材に対してはどうお考えなのかと、どんどんいなくなってしまうことを危惧していただければと思います。私自身も目の前はさいたま市なのでそちらに移った方が高いわけで、実際こういう現場での悩みがあります。色々な方が蕨市に意見を伝えてくださっているとと思いますが、再度私が現場目線での言葉としてお伝えしたいと思います。

委員

誤解されては困るというのがありますが、まず事業所の収入については地域区分が上がると、収入が増えて事業所からのボーナス分くらいは出るかと思いますが、「報酬がほしいから」というだけでお伝えしているわけではありません。区分が低いということは、介護人材から見ると、物価が安いということと同時に、この地域は賃金が低いと見られてしまいがちで、人材が外に流れていくことは目に見えているかなと思います。人材が流れていくということは事業所が減少していくということで、すぐにでも戸田や川口に移転できるような事業所も多く、将来的には考えているという意見も聞いています。事業所が減少していくということは会長のごあいさつの言葉を借りるのであれば、「地域の住民の皆さまが安心して暮らせていけるか」ということ

	<p>に関わってくるかと思ひますし、ドーナツ化現象によつて、蕨だけが介護資源が少ない地域になってしまうことがとても心配です。</p> <p>私の担当している利用者でも蕨の事業所だけを使つてゐる人はほとんどいません。市内の事業所がいっぱいだったり、内容的にも戸田や川口の事業所を使つたりしている方も多いので、蕨市の地域区分が上がつても利用者負担はそんなに変わらないのではないかとと思ひます。</p> <p>介護をする家族を考える上で、介護人材の不足というのは全国的な課題でありますし、介護離職というのも全国的に大きな問題だと思ひます。私たちは介護のために仕事を辞められた方にどうして公的なサービスを利用しなかつたんですか、ケアマネジャーに相談して公的サービスを利用していましようかとアドバイスをしますが、その選択肢が少なくなるというのは、やはり蕨市で住みにくくなつていくことに繋がるのではないかと心配しております。</p> <p>決して給料を上げてほしいだけの問題ではないことを、お分かりいただければと思ひます。</p>
<p>委員</p>	<p>事前に蕨市事業者連絡会では、市長に対して要望書を提出させていただいております。我々は事業所の立場で考えますし、市長は市民の立場で考えると思ひます。ただ長い目で見ると、市民が高齢になつたときにサービスがないことがありうると思ひますので、よく考えてご判断いただきたいと思ひます。</p>
<p>4. 副会長あいさつ</p>	<p>皆さまお疲れ様でした。地域区分については先々週に、医師会の理事会の方にも蕨市が説明に来ていただきまして、医師会からも意見を伝えさせていただきました。</p> <p>医師会の方でも地域区分の件は大変懸念しております。結果としてサービスの低下を招くのではないかと考えていることを皆さまにお伝えしたいと思ひます。</p>
<p>5. 閉会</p>	